



「樹木管理行動計画」が令和5年3月に作成されている。計画では「緑豊かな公園となっている一方で、樹木の密生により、眺望や景観の阻害、堀や廓、土塁、石垣の顕在化と保全への悪影響が課題」として、30年計画で段階的に樹木の伐採を進めるとしている。この年4月に高岡ロータリーが開いた利長公シンポジウムで城郭考古学者の仙田嘉博氏が「建造物がなくても土塁と堀が存在すれば立派な城郭だ」と述べ、角田市長も市民からの寄付金を募って樹木の伐採整理を進める考えを表明、昨年度から本格的に樹木管理が動き出した。

第一弾として手掛けたのは、市民体育館の正面に位置する、射水神社裏側の傾斜地。市民に見えやすく、効果がわかりやすい場所として選定された。重機を入れる道がないため、人手で木を切り出し、堀に落としてワイヤで吊って対岸へ運び、さばくという手順で進めた。簡単そうに思うかもしれないが、専用の道具を使える技術のある作業者を雇い、幹回りが4メートル近いカシやシイの大木は、1本切るのに2日から3日かかった。伐採した木は処理業者を通じて製紙チップやたい肥に活用したり、薪にして市民に配布したりして、無駄なく使っている。65本伐採し、サクラやモミジ34本は残した。伐採後はすっきりとして城郭の角のへりが姿を現し、ここが城だったという具体的なイメージでできるようになったのではないかと述べている。

市のガバメントクラウドファンディングで2000万円の資金が集まった。市はことしもクラウドファンディングを募って、射水神社に向かう土橋付近で石垣を見せるように伐採を進める意向だ、古城公園は年間通じて行事が多く、利用者も多い。安全確保のため工事ができるのは11月から3月までの冬期間しかなく、寒い時期で仕事も大変だが、工事の手法を工夫しながら着実に進めていきたい。